

令和7年度 小平市立上宿小学校 学校評価報告書

学校教育目標	◎かしい子 豊かな情操に支えられた創造的思考力の育成 ○がんばる子 ねばり強く追求する意志力の育成	○やさしい子 相手の心情を考えるやさしさと連帯感の育成 ○じょうぶな子 心身ともに健康で前向きに生きる力の育成
---------------	--	--

目指す学校像(ビジョン)	【目指す学校像】 「楽しい」「明日も来たい」上宿小 ～学校にかかわるすべての人の誇りとなるように～ 【目指す児童・生徒像】 めあてをもって主体的に学ぶ上宿の子 【目指す教員像】 人を大切にし、魅力ある授業を実践しようとする教員
---------------------	---

前年度までの学校経営上の成果と課題
 ○9割の方が学校からの情報が保護者や地域へよく伝わっていると感じている。○校内研究で取組みにより、総合的な学習時間・生活科における学びのスパイラルのイメージができた。
 ▲児童の基礎的・基本的な学習内容の定着が十分ではない。▲CSとしてプロジェクトチームの取組、教育課程説明会は実施したがが保護者・地域の方々のCSに対する認知が不十分である。

	具体的方策	第1回評価		指標に基づく成果・課題・対策	第2回評価		学校関係者評価	指標に基づく成果・課題・次年度以降の対策
		取組指標	成果指標		取組指標	成果指標		
個別最適な授業の実践	授業のねらいの明確化や児童に考えさせるための発問、ICTの活用を生かした個別最適な学びを取り入れ、年3回の公開授業を行う。	3 86%	3 86%	○各学年や教科の実態に応じて、めあてを立てたり、振り返りをしたりして、学習した内容の定着を図れている。 ▲課題：一人一人に課題をもたせることができる教科とそうでない教科があったり、児童が自分にあつた振り返り(学習評価)ができている、かき取りづらい。 ⇒教科の特性や学習内容にもよるが、できるだけ一人一人にあつた課題をもたせることができるように意識してたり、振り返り(学習評価)の仕方を検討している。	3 87%	3 84%	・学力が高い児童も楽しく学習できるよう、自分に合っためあてを設定し、学習できる時間を確保できるとよい。 ・学習者用端末の活用をさらに進め、一人一人の学習内容をしっかりと把握することで、学習成果の定着につなげることを期待している。	○各学年や教科の実態に応じて、口頭やノート、ワークシートへの記録、学習者用端末への入力など様々な方法で、めあてや課題を立てたり、振り返りをしたりすることができた。 ▲課題：「自分に合っためあてや課題」を一人一人にわたせることが難しい。また、その評価もづらい。 ⇒全体のめあてや本時の学習内容を確認した後、「自分はどこをこの時間に頑張りたいか」を考えさせ、自分に合っためあてや課題をもつことができるようにしていく。
	活用のねらいを明確にして、学習者用端末を活用する。	4 93%	3 87%	○意見の共有で学習支援アプリを使うことで、対面ですり、多くの児童と意見交流をすることができている。また、デジタルドリルの活用も昨年より増えてきている。 ▲課題：どのようなねらいで学習者用端末を使用するかを分かっていない児童がいる。 ⇒学習者用端末を使う場合とノートに各場合の意図を明確に伝えたり、児童に考えさせたりすることで、効果的な使用場面を意識して行けるようにしていく。	3 87%	3 84%	・低学年は、学習者用端末の扱いがさらにスムーズにできるようになるように今後とも指導していく必要がある。	○「教員からの資料提示」「児童同士で意見の共有」「習熟を深める」などねらいを明確にして、様々な場面で学習者用端末を活用した。 ▲課題：どのよきなときに、学習者用端末を有効活用できるか、判断に悩むときがあった。 ⇒情報教育推進担当教員やIT担当教員が中心となり、学習者用端末を活用する効果的な場面について研修会を行い、学校全体の学習者用端末の活用能力を高めている。
学力向上	年間を通して、週2回の上宿タイム、週2回の読書タイム、毎月の詩の暗唱に取組む。東京ベシク・ドリルの診断テストで平均正答率を7割にする。	4 100%	1 58%	○ベシクドリルの診断テストの結果をもとに、児童の苦手な分野に絞って課題を出すことで、より効果的な学習ができるようにしている。 ▲課題：児童の様子を見ていて、さらなる反復練習が必要だと感じる。 ⇒デジタルドリルだけではなく、プリントに取り組み時間を増やすなどの取組みを行う。	4 100%	3 71%	・ベシクドリルの診断テストの結果など、コツコツと継続してきたことが数字となって示されてきてよい。基礎的・基本的な力が定着できてきているのが分かる。 ・学力の底上げは一部の方だけでは不可能なので、家庭との連携の方法も模索していく必要がある。	○今年度から朝の上宿タイムに紙とデジタルの両方を取り入れたことで、問題を絞って苦手を克服する紙ベースと、たくさんの問題を解き習熟を深めるデジタルドリル、それぞれのよきが学力の向上につながった。 ▲課題：現在、3年生で行っている朝学習のボランティアの需要が他学年にも広がってきているが、人材を確保するのが難しかった。 ⇒学校運営協議会や地域連携コーディネーターと連携しながら人材確保に努めていく。
	詩の暗唱と学年に応じた読書の目標設定を行い、年間の目標を達成する。	3 82%	4 86%	○詩のめあてを個人で決めることができるようにしたことで、自分に合った目標で取り組むことができるようになった。 ▲課題：高学年の図書の時間がなかなか確保できない。 ⇒高学年は様々な学校行事があり、学校だけで読書の時間を確保するのは難しい。読書旬間を活用して家庭に呼びかけ、家での読書時間を増やし、目標を達成できるようにする。	3 73%	4 82%	・朝学習でも、児童の理解度の際に応じた対応ができることよい。 ・朝学習ボランティアの継続的な運用の為に人材確保が課題である。	○詩のめあてを決め、振り返りを行われ1年間続けたことで、自分に合った内容で取り組むことができた。毎日の宿題を取り組んだり、暗唱テストに取り組みだして意欲の醸成を図れた。 ▲課題：詩の暗唱に取り組み時間が設定されておらず、時間を確保するのが難しかった。 ⇒朝の会や国語の授業の始め、毎日の宿題などに取り入れていく。
健全育成	いじめを題材にした道徳の授業を全学年で学期に1回実践し、いじめの未然防止の取組を行う。	4 100%	4 87%	○特別の教科道徳の中で、全学年、必ず取り扱っている。また、身近な題材を選ぶことにより、児童が考えやすい工夫している。 ▲課題：誰も被害者にも加害者にもなる可能性があることをなかなか認識できていない。 ⇒教科書の話だけでなく、事例や説話も取り入れながら指導する。	4 100%	4 84%	・学校、家庭、地域などたくさんの目で見守ることができていて、児童が安心して学校生活を送ることができている環境が整えられている。引き続き丁寧な対応を継続していきたい。	○毎学期、年間指導計画に位置づけられているので、全学年、必ず行うことができた。また、日々の生活の中で、気になることがあれば、その都度指導している。 ▲課題：1年生は、年度当初の授業では、「いじめ」という言葉を認知するのが難しかった。 ⇒学年の実態に合った事例などを中心に指導することで理解を促していく。高学年は、権利や義務などについても考える機会を設けるなど思考を高めていくような指導をしていく。
	毎月児童にアンケートを取り、内容に応じて面談をして実態の把握を行い、いじめ対策委員会、いじめ防止サポート会議など組織的に対応する。	4 100%	4 100%	○アンケートをとり、当事者の意見をしっかりと聞き取りながら、指導している。必要に応じてサポート会議で取り上げ、情報共有を進めているので、特に課題はない。 ⇒今後も引き続き、丁寧な聴き取りと学校全体での対応を行っていく。	4 100%	4 100%	・問題が起きた際、その都度指導したり、道徳の授業で取り上げたりすることで未然防止につながっていると思う。	○毎月、アンケートをとり、しっかりと聞き取りを行いながら、学校いじめ対策委員会を中心に対応している。また、それ以外にも日々の生活の中で少しでも気がなることがあれば、すぐに指導するようにしているため、特に課題はない。 ⇒今後も引き続き、丁寧な聴き取りと学校全体での対応を行っていく。
体力向上	めあてをもち、運動へ取り組み、振り返るとい学習の流れを体育の学習で実践する。	4 100%	3 87%	○学習の始めに「めあて」を設定し、ワークシートや学習者用端末で「振り返り」を行う流れができている。 ▲課題：単元の最後にどう自分になりたいかというゴールを明確にできていない児童がいる。 ⇒単元の流れや身に付けるべき技能を最初に確認することで、児童がやりたい姿」をイメージして学習に取り組むことができるようにする。	4 100%	3 83%	・学校以外の場で日常的に運動する機会が減少している。学校外でも日常的に運動するように継続できるようにし、健康な体づくりを進めていきたい。	○毎時間、ワークシートや学習者用端末を活用し、「めあて」「活動」「振り返り」という流れを実践することができた。 ▲課題：個人の振り返りカードの記入が授業外になる場合が多い。 ⇒授業時間内に収まるように、1単位時間の流れを精選して行う。また、学習者用端末のよさを活かし、本時では口頭による振り返りに留め、児童の空いている時間に記録を残すようにするなど工夫していく。
地域との連携	生活科、総合的な学習の時間に地域資源を活用した学習を各学年で実践する。	3 82%		○農園でのじゃがいも堀り福祉体験などを通して、児童の学びの幅を広げることができている。 ▲課題：1学期ということもあり、外部と連携していない学年もある。 ⇒2学期以降、どの学年も地域人材を生かした学習を計画しているので、着実に実行し、児童の学びを深めていく。	4 100%	3 86%	・地域人材の活用や行事への協力を通して、学校と地域のつながりが築かれており、教育活動の充実に役立っている。 ・様々な場面で地域の力が必要になつてきており、さらなる人材発掘が必要である。	○「視覚・聴覚障がい者及び高齢者疑似体験」「農園活動」「ともに生きる」などの学習で多くのゲストティーチャーの方々や関わり、学びを深めることができたので、特に課題はない。 ⇒来年度も引き続き、地域人材を生かした学習を行い、児童の学びを深めていく。
	年間10回の学校運営協議会を開催し、プロジェクトチームを中心に検討し、具体的な取組を行うとともに教育課程説明会を実施する。	3 80%	4 85%	○今年度から地域や保護者の方の話を先に行うこととしたことで、昨年度までより、地域や保護者の方が積極的に話し合いに参加し、議論が活発になった。 ▲課題：話し合つて決まったプロジェクトを学校や地域全体の取組みを実現し、その効果を検証していく必要がある。 ⇒プロジェクトチームごとの内容を全体で共有し、実際に取組み、進捗状況や成果を報告し合う。	2 60%	4 81%	・学年で行う内容が決まっているので、誰でも分かるように引継ぎ内容を把握できるようにして欲しい。	○「学校運営協議会委員による話し合い」「先生方も参加してのプロジェクトチームの話し合い」進捗状況の確認など話し合いのねらいが明確になったことで、毎回充実した話し合いを行うことができた。 ▲課題：話し合いの回数が昨年より減ってしまったので、全体の進捗状況を確認しづらかった。 ⇒学校運営協議会のメンバーからプロジェクトの最初に、これまでの進捗状況について話をしてもつたり、CSだよりを確認したりして対応する。
働き方改革	会議や学校行事における取組の精選等を行い、学年で相談する時間及び授業準備の時間を確保する。月50時間を超える時間外勤務をなくす。	4 93%	3 87%	○会議の時間設定や下校時刻の繰り上げ、ICTの活用などで、放課後に児童の情報交換や教材研究ができる時間が増えた。 ▲課題：勤務時間内に終わるように意識しているが、なかなか勤務時間内だけで仕事を終わらせるのは、難しい。 ⇒優先順位をつけたら、空き時間が合うときに、学年で相談したりする。	3 87%	3 87%	・業務の工夫やICTの活用によって先生方の働き方の見直しが進められていて、よりよい環境づくりへの取組が行われていると分かる。教職員が健康で、家族を大切にできる環境整備が大切である。そうすることで、よりよい学校教育を推進できることと思う。 ・CS便りを発行したり、話し合いの場を設けたりしてもなかなか認知度が上がらない。	○チャット機能を活用したり、優先順位をつけて業務を行ったり、空き時間が合うときに学年で相談したりすることで、勤務時間内に仕事が終わることが増えた。また、長期休業中に、教材研究をまとめて行ったことも、学期中の負担軽減につながった。 ▲課題：やり方工夫しているが、なかなか勤務時間内だけで仕事を終わらせるのは、難しかった。 ⇒研修の持ち方を工夫したり、既存の業務内容の更なる精選をしたりして、時間を生み出していく。